



しもつけ文化財探訪

第17回 下野国分尼寺跡

「^{あまでら}尼寺」と聞くとハムレットを思い出す方も多いかもしれませんが、下野市民の皆さんは、尼寺＝「天平の花まつり」の印象が強いと思われます。今回は、尼寺の発見から花まつりに至るまでの経緯を探訪します。

尼寺として知られている^{こくぶんにじ}国分尼寺と^{こくぶんそうじ}国分僧寺の総称として「^{ほっけ}国分寺」と呼ばれていますが、^{ほっけ}建立時の正式名称は「^{めつざいのてら}法華滅罪之寺」で、10人の女性の僧を置くことが決められていました。全国の^{こくぶんにじ}国分尼寺の総寺は、今も奈良に現存する「^{ほっけじ}法華寺」がその役割をしていました。

国分寺や尼寺については、文献などいろいろな資料が残されています。下野国分寺についても江戸時代から「^{こくぶんにじ}国分寺」文字のある瓦が出土することから場所はおおよそ特定されていましたが、下野国分尼寺についてはまったく分かっていなかったようです。

昭和39年4月に東京から工場が進出することになり造成工事を開始したところ発見され、その直後に緊急調査が行われ、翌40年4月9日付けで国指定史跡として登録されました。

昭和42年度から史跡整備が始まり、昭和45年に史跡公園として整備されました。この国分尼寺の史跡整備は、全国でも例が無く、栃木県内においても最初の事例となりました。（詳細は国分寺町史通史編をご覧ください）

尼寺の整備が行われる以前この周辺は雑木林で、ゴミが不法に投棄されていました。これらを防ぐため周辺に桜を植えるなどをして、環境美化が図られました。昭和53年に、西部コミュニティセンターとして聖武館が建設されました。この頃には、地域の管理団体が結成され、除草清掃を行っていただきました。さらに昭和55年には、第1回目の花まつりが開催されました。また、昭和61年にはしもつけ風土記の丘資料館が開館、平成3年には県埋蔵文化財センターが開所するなど、公共施設が充実していきました。このような中、昭和62年に「^{こくぶんにじ}国分寺の花まつり」から「^{てんぺい}天平の花まつり」へと名称が変わり、秋には「^{てんぺい}天平の菊まつり」が開催されるようにもなりました。また、昭和63年に平地林保全のため、^{こくぶんにじ}国分尼寺の隣接地を買収し5か年計画で「^{てんぺい}天平の丘公園」



の整備が行われました。平成6年には国分尼寺跡に隣接していた運動場を埋め立て、花広場がオープンし、野外ステージも新設されました。

このように、ゴミの山だった尼寺周辺は、花のある憩いの場になりました。

下野国分尼寺跡は、天平の丘公園の一角に整備されており、公園内には県立のしもつけ風土記の丘資料館や埋蔵文化財センターが所在するなど、古代下野国の歴史を学習するには、最適の場所になっています。また、周辺には約700本の桜やツツジが植えられ、春には淡墨桜・八重桜が咲き誇り、下野市を代表する観光の名所となっています。



問い合わせ先 文化課 ☎52-1120

今回は「日光道中石橋宿」を探訪します。